

## 今日の説教のポイント <マタイによる福音書 10 章 26~31 節>

### ①神様を恐れる（畏れる）ことこそ、勇気と平安を生む！

イエス様が福音を宣べ伝えに出て行く弟子たちに「恐れるな」と語られた箇所です。しかし、節ごとに内容が異なっていますので、これを書いたマタイは、イエス様が色んな機会に「恐れるな」と語られたものを集めたのでしょう。よって、イエス様は人々に繰り返し「恐れるな」と語って、励まして下さった方なのです。

しかし、それで「恐れる」ということが悪いと決めつけてはなりません。「人々を恐れてはならない」(26)「むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい」(28)とあります。人間を恐れる必要はない、しかし、神様を恐れることは良いことで、むしろ恐れなければならない、とされているのです。詩編 33 編にこうあります、

「王の勝利は兵の数によらず、勇士を救うのも力の強さではない。馬は勝利をもたらすものとはならず、兵の数によって救われるのでもない。見よ、主は御目を注がれる。主を畏れる人（口語訳：恐れる人）、主の慈しみを待ち望む人に。彼らの魂を死から救い、飢えから救い、命を得させて下さる」(16-19)。ですから、恐れることが全て悪いのではなく、神様を恐れることは大切で、良いことなのです！ 神様を畏れる（恐れる）ようになった時こそ、私たちの中に、「神様以外の何ものも恐れぬ」という勇気と平安が生まれて来るからです！

### ②「あなたたちは神様の子、だから恐れるな」とイエス様は言われる！

また、イエス様は 29 節で、「あなたがたの父のお許しがなければ」と表現され、神様を私たちの父と言われています。私たちは神様を父と呼んでいいのです！ 私たちはどういう存在か？ 私たちはこの世界を造り、歴史をも支配しておられる父なる神様の大事な存在なのです。「だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている」(31)。

神様のことを父と思えと言われても、ピンと来ないかもしれません。人間である私たちの父親には色んなタイプの人があります。どうしようもない父親もいます。しかし、だからと言って、嘆き悲しむことはありません。もう、本当の父親（神様）を持っているのですから！